

第2回 キャリア教育等連携推進会議 議事概要

1 日 時 令和元年 10 月 15 日（火） 10:00～11:51

2 場 所 富山県庁 4 階大会議室

3 出席者

(委員)	石倉 卓子	伊東 潤一郎	神川 康子	小柴 順子
	志賀 文哉	鈴木 景二	瀬川 信子	園 博昭
	中西 彰	深松 茂	宮口 克志	
(専門委員)	荒木 義雄	上田 雅裕	金田 秀樹	竹本 泉
	谷内口 まゆみ			
(県側)	富山県知事		石井 隆一	
	教育委員会教育長		伍嶋 二美男	
	教育委員会教育次長		坪池 宏	
	教育委員会参事・教育企画課長		広沢 久也	
	教育委員会生涯学習・文化財室長		菊池 政則	
	教育委員会教育参事・県立学校課長		本江 孝一	
	教育委員会小中学校課長		近藤 智久	
	厚生部子ども支援課子育て支援班長		板倉 由美子	
	総合政策局企画調整室私学振興担当主幹		篠原 俊一郎	

4 開会

司会が開会を宣し、知事が挨拶した。

5 協議

(1) 委員・アドバイザーの意見について

事務局から、資料に基づき、前回会議における委員からの意見概要及び本県におけるキャリア教育等に係る施策に対するアドバイザーからの意見概要について説明した。

(2) ひとづくり構想会議提言と、対応するキャリア教育等に係る事業について

事務局から、資料に基づき、ひとづくり構想会議提言に対応する今年度の取組みと、来年度以降の取組みの概要について説明した。

(3) 今年度の取組みの進捗状況と成果・課題、今後の方向性について

事務局から、資料に基づき、以下の順に個別の事業について説明した。

- ① キャリア教育について
- ② ふるさと教育について
- ③ 探究力等の育成について

④ 幼児教育の充実と強化について

⑤ ICT教育の推進について

【委員・専門委員からの意見】

(竹本専門委員)

- ・ 「キャリア・パスポート」を有効に活用するためには、丁寧な周知が何より大事である。しっかり取り組んでほしい。
- ・ 「14歳の挑戦」が実施されて20年になり、学校現場には「14歳の挑戦」を体験した教員もいる。全国に先駆けて実施し、継続されてきた「14歳の挑戦」の後押しをしていただきたい。

(谷内口専門委員)

- ・ 「キャリア・パスポートー富山県版ー」の作成に携わった。シンプルでわかりやすく使いやすいものを目指した。ポイントは次の3点である。
 - ① 学年初めに身に付けるべき力を意識できて、学年末に自己評価できること。
 - ② 教員だけでなく、家庭や地域の人が児童生徒の成長に対話的に関わることができること。
 - ③ 地域のよさや地域との関わりなどについて記入できるページがあり、ふるさと教育を推進していくこと。
- ・ 活用に当たり学校現場で積極的に使っていきたい。

(小柴委員)

- ・ 昨年から上市高校、町、企業、事業所が連携して、地元の企業を知ってもらい、働くことへの意識を高め、職業観を養うことを目的に、職場見学会を実施している。
- ・ 昨年参加した現2年生は、インターンシップ希望者が前年比2倍、またティーンボランティア登録者も、昨年比2倍以上となった。生徒が職場体験することで大きなうねりとなり、確実に生徒が変化している表れである。
- ・ 今年も1年生を対象に10月30日と11月16日に職場見学会を実施する。
- ・ 「企業の魅力体験バスツアー」は素晴らしい取り組みであり、企業側としても協力して取り組んでいきたい。

(園委員)

- ・ 「社会へ羽ばたく『17歳の挑戦』」のアカデミック・インターンシップは、2倍を超える応募があり、アンケート結果も好評だったので、スモールスタートは成功したと思われる。
- ・ これを拡大することを考える際、高等学校一学年約9200人中、進学は約4800人なので、今回の125人をどのくらいまで拡大するのかを、費用対効果を適切に見積もりながら準備を進める必要がある。
- ・ 受入先の拡大は大変であるが、しっかりやってもらいたい。富山大学や富山県立大学の学部、学科で協力していただいているが、これを拡大することが大事である。

(神川会長)

- ・ 今後、より多くの生徒が体験できるようなアイデアがあればお願いしたい。

(志賀委員)

- ・ 「17歳の挑戦」事業についてだが、富山大学7/31分を担当した。1講座あたりの適正な人数は10人程度であると思われる。受入人数を増加するには、各学部が担当する講座数を増やす、受入学部を増やす、受入大学を増やす、などが必要となる。

(神川会長)

- ・ 実施して良い評価を得ている。今後領域が広がってくると期待している。
- ・ キャリア教育について、事務局から追加説明があればお願いしたい。

(本江参事・県立学校課長)

- ・ 「アカデミック・インターンシップ」の受入先について、既に受け入れている富山大学及び県立大学において、他の学部への拡充を図る。また、新たな大学での受入れについて検討したい。

(神川会長)

- ・ 次は「ふるさと教育」についてご発言をお願いしたい。

(中西委員)

- ・ 体験交流型では、親子での自然体験活動や世代間交流が積極的に行われている。子どもたちがふるさとを知り、愛する心を育むことに効果的である。
- ・ 地域振興型は、地域課題を見ながら新たなふるさとを学んでいくということで効果が出ている。
- ・ 県民がふるさとを愛する気持ちを高めるためには、県民カレッジが主催している、ふるさとについて学べる講座を充実するとともに、ふるさと富山の魅力を発信する人材を養成する必要がある。
- ・ 文化財は学術的価値に加え、観光資源としての価値がある。外国人旅行者にも魅力を分かりやすく伝えるため、ホームページ等の多言語化が必要である。

(神川会長)

- ・ インプットだけでなく、アウトプット、発信も大事であるとのことご発言だった。
- ・ 中西委員のご発言について事務局から追加説明があればお願いしたい。

(菊池生涯学習・文化財室)

- ・ 来年度は、ふるさとに関する講座のさらなる充実を検討するとともに、ふるさとを発信できるような指導者の養成講座の開講なども検討したいと考えている。
- ・ 本県の文化遺産の魅力を広く情報発信するために、国の補助事業を活用して、平成30年度に作成したホームページの多言語化も必要ではないかと考えている。

(神川会長)

- ・ 次のテーマ「探究力等の育成」についてご発言をお願いしたい。

(伊東委員)

- ・ とやま科学オリンピックは、作問に当たる教員の負担軽減を含め、更なる充実を図ってもらいたい。
- ・ 小学生の参加者減に対する取組みはよいと思うが、中学生に比べ高校生の参加が少ない。高校に行っても参加したいと思えるような大会であればよい。
- ・ 科学オリンピックは、思考力や問題解決能力の育成につながると思うが、社会に出てからは「問題発見能力」も求められるので、その点も考慮した取組みになるとよ

い。

(神川会長)

- ・ もっと広く参加していただくための方策についてのご意見について、事務局の追加コメントをお願いしたい。

(広沢参事・教育企画課長)

- ・ 小学生の参加が増えれば、将来の中高生の参加増にも結び付く。
- ・ これまでも、大会に3回以上参加した中高生を「とやま科学オリンピックマスター」に認定し、記念章などを授与している。こうした取組みも続けていきたい。
- ・ 作問委員とも相談し、問題発見能力の伸長に役立つような作問に心がけていきたい。

(神川会長)

- ・ 作問から考えると発達段階ごとに切るのいいが、違う年代、小学生、中学生、高校生と一緒に協力してチャレンジしたり、家族ぐるみで参加したりするなど、範囲を広げることもできるのではないか。
- ・ 次は幼児教育についてご意見をお願いしたい。

(石倉委員)

- ・ 今年度設置された幼児教育センターの果たす役割は大変大きい。
- ・ 幼児教育と小学校教育の円滑な接続の重要性が一層高まっている。今後は、幼児教育で育まれた資質・能力を踏まえた幼小接続カリキュラムの見直しなど、幼児教育、小学校教育に携わる保育者、指導者が双方向の学びを深めていく必要がある。
- ・ 2021年5月に約2000人規模の日本保育学会が富山県で開催される。保育現場、研究者、行政の関係者が参加する学会であり、これに向けて加速度的に富山県の幼児教育、幼小接続が周知、進展していくものと期待している。

(神川会長)

- ・ 幼児教育について、他にもご意見があればお願いしたい。

(上田専門委員)

- ・ 訪問研修について。保育園、幼稚園は同じように見えて違う世界であることを理解してもらいたい。今は「幼児教育」と一本化されているが、長い間、違う形で動いてきた。特に私立の園・所には建学の精神や独自性があり、一律の研修が成り立たない。幼稚園、保育園、認定こども園それぞれの実状をしっかりと見ていただきたい。
- ・ 市町村のリーダー育成について。保育園しか知らない先生と、幼稚園しか知らない先生とが同じ職場に来ると、保育の考え方で相容れない点が多く見られる。どちらがいい、悪いではなく、違いがあることを理解したうえで、リーダーの育成に取り組んでももらいたい。幼稚園と保育園の制度や歴史の違いを、幼児教育センターで調べてまとめていただきたい。
- ・ 保育園と幼稚園では研修制度自体が異なる。これまで両方いっしょに行っていた研修はほとんどない。今後幼児教育センターが関係部局と調整し、幼稚園の先生も保育園の先生もいっしょに受けられるような研修制度をぜひやっていただきたい。違いをお互いに理解し、よりよい幼児教育をお願いしたい。

(神川会長)

- ・ 次はＩＣＴ教育について、ご意見をお願いしたい。

(荒木専門委員)

- ・ いわゆる「超スマート社会」の実現に向けて、人工知能（ＡＩ）やビッグデータの活用などの技術革新が急速に進んでいる時代において、生徒の情報活用能力の育成は重要であり、そのための環境整備を着実に進めていってほしい。
- ・ 令和２年度末で、全ての県立学校にタブレット端末や無線ＬＡＮ環境等が整備されるとのことだが、今後は授業でのＩＣＴ利活用をさらに進める取組みが必要ではないか。
- ・ 利活用を進めるため、引き続きＩＣＴ活用サポートデスクの設置や、デジタル教材の導入を計画していただいていることはたいへんありがたい。

(神川会長)

- ・ ５つのテーマでみなさんからご意見をいただいた。全体通して補強していただきたい。

(瀬川委員)

- ・ 家庭教育に関する悩みや不安を抱く親に対して、「親学び」のほか、電話相談、カウンセリング、電子メール相談等を活用し、いつでも気軽に相談できる体制があり、ありがたい。今後も維持していただきたい。
- ・ より小さい子どもをもつ親同士が子育てについて気軽に話し合う機会として、こども園や子育て支援センターでの「親学び」を増やしてはどうか。
- ・ 「親学び」への関心や参加意欲をもっと高めるための手立てが必要である。
- ・ ２０２０年に富山県内でＰＴＡの全国大会を８０００人規模で開催する。「１４歳の挑戦」や「親学び」など、いろいろなテーマで親同士が語り合う機会をもちたい。

(神川会長)

- ・ 富山県がやっているいいことは、全国にどんどん発信していただきたい。

(深松委員)

- ・ 富山大学の船橋伸一教授による、富山で働くメリット、富山で学ぶメリットについての講演がよかった。「１７歳の挑戦」の事前研修でこの講演も効果的である。
- ・ 富山に帰って活躍したいという大学生の話を高校生に聞かせる機会があるとよい。

(鈴木委員)

- ・ キャリア・パスポートの中に地域との関わりに関する項目が入ったとのことなので、積極的に活用してほしい。
- ・ 公民館を中心とし、ふるさととのつながりを推進していただけるのはありがたい。
- ・ ふるさとへの愛着を維持するため、今後は年中行事や祭礼をさらに活用できるとよい。

(宮口委員)

- ・ これまで学校現場で見られた、年度初めに「めあて」を書かせることは良いが、書かせっぱなしで終わる場合がある点が残念である。今後はポートフォリオということで導入される「キャリア・パスポート」により、自分を振り返り、見つめるために、有効活用できればよい。

- ・ 県内にある素晴らしい企業について、児童・生徒を指導する教員の知識が乏しい。教師自身がしっかり学んで子どもたちの前に立ってほしい。素晴らしい企業の魅力子どもたちに熱心に語る教師の姿こそが子どもたちのキャリア教育になる。
- ・ 答えのない問題に取り組むことや、クリティカルシンキングがとても重要であると言われている。そういったことをしっかりと意識した授業を行うこと、そして科学オリンピック等の理数教育、科学教育に結び付けていくことが重要である。

(神川会長)

- ・ 新しいことを導入する際に、仕事が増えていくのではなく、より有効なものに集約させるような方向性が望ましい。
- ・ キャリア・パスポート、ポートフォリオは、誰のためでもない、本当は自分の成長のためであることをしっかり意識させるとよい。

(金田専門委員)

- ・ 各私学とも財政状況が厳しく、今後とも物心両面の支援を賜れば、キャリア教育、人づくりに大いに貢献できる。
- ・ 特に就学支援や、ICT 環境の整備にさらなる支援をいただければと思う。

(小柴委員)

- ・ 留学生や、企業で技術、仕事の仕方、日本の文化などを学んでいる実習生が講師となり、自分たちが日本に来た目的や将来の夢などを日本の学生に語ってもらえば、自分たちも将来国際的に活躍したいと思ってもらえるのではないか。

(神川委員)

- ・ 大学に在籍する留学生が地域に発信すると、視野が広がる。

6 閉会

知事がコメント及び閉会の挨拶をし、11 時 51 分、議事が終了したので、司会が閉会を宣した。